



特定感染症検査の現状と課題

都城保健所

佐藤優子 壹岐美恵子¹⁾ 宮田志保 日高香織 向原洋子 日高信輔
進藤義博²⁾ 塩井川二郎 徳山和秀 荒木加納子 吉野修司 井上隆正³⁾
小寺美津夫 藤本茂紘

¹⁾日南保健所 ²⁾中央保健所 ³⁾県立宮崎病院



(表1) HIV検査における未成年者の受診者数と占有率

	H17	H18	H19	計
未成年者のHIV検査 受診者	7	8	11	26
HIV検査における 未成年者の割合（％）	6.3	6.2	5.3	5.8



(表2) HIV検査における要確認検査状況

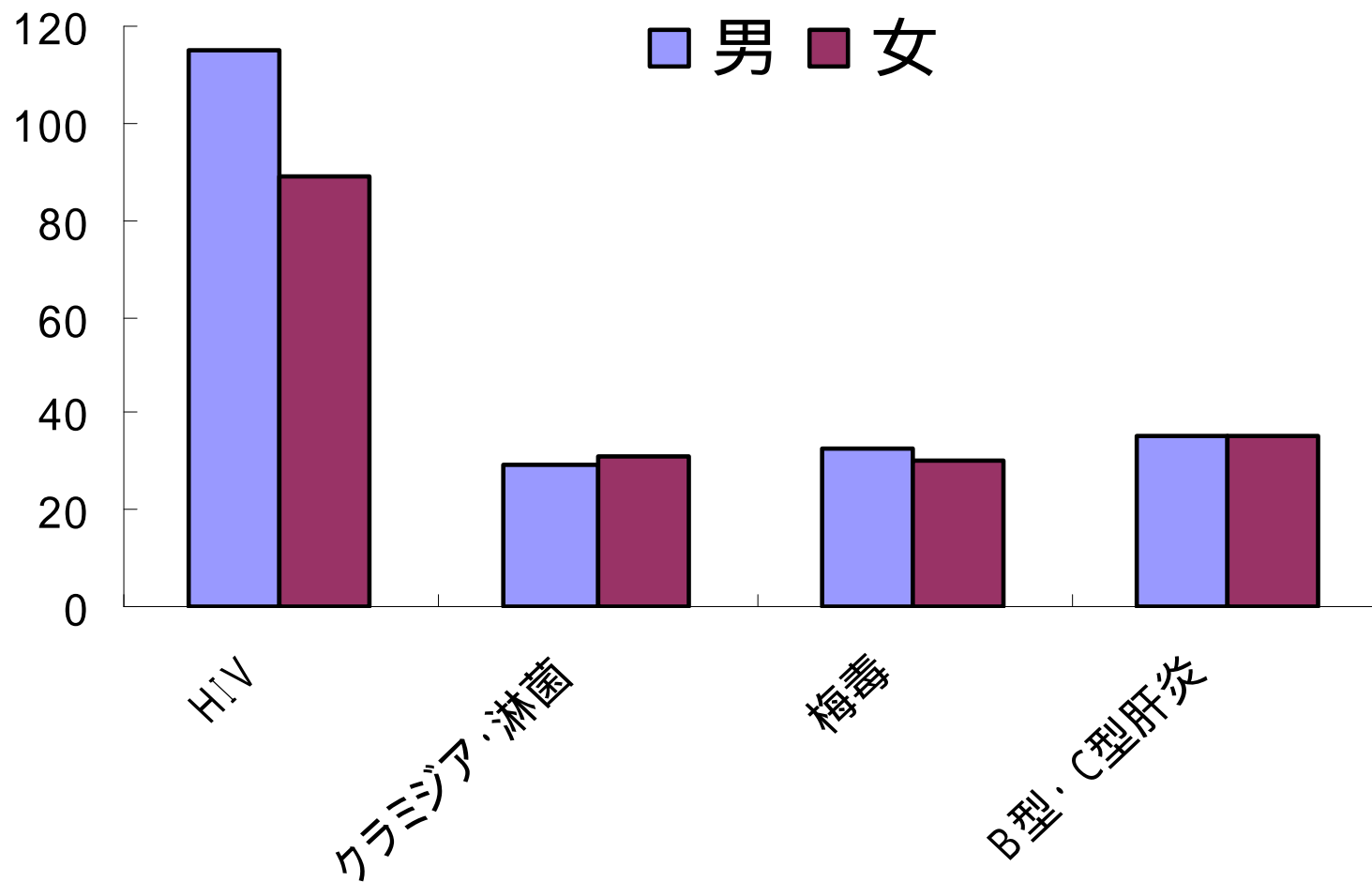
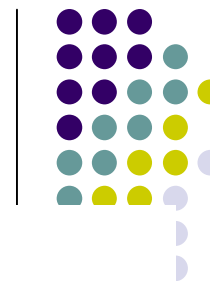
	H17	H18	H19
受診者総数	112	130	204
確認検査数(率)	1(0.9)	1(0.8)	2(1.0)
確認検査における未成年者数	0	0	1
陽性数	0	0	1

(表3) 特定感染症検査の未成年者数と陽性者数



	HIV	クラミジア 淋菌	梅毒	B肝	C肝
受診者総数	204	60	63	70	70
未成年者数 (未成年者の割合%)	11 (5.3)	4 (6.7)	6 (9.5)	6 (8.6)	6 (8.6)
陽性者総数 (陽性率%)	1 (0.5)	5 (8.0)	1 (2.0)	1 (1.4)	2 (2.9)
未成年者の陽性者数	0	1	0	0	0

(図2) 特定感染症検査受診者・男女別





(表4) 夜間HIV検査における受診者数の推移

	H17	H18	H19
受診者総数	21	22	38
1回受診者数(平均)	2.1	2.0	3.8



結果通知における未通知者

H19

通知日に来所がなかった者

3

来所がなかった者の陽性者

1

当保健所における検査体制の課題



匿名検査であるため(特にHIVが要確認検査になった場合)検査結果が判明する1週間は、受診者の不安や再診のすすめなど支援の手段がとれず、本人からの連絡を待つしかない。

検査項目の増加により、受診者1人当たりの対応や検査に時間がかかり、プライバシー保護の観点からも1日当たりの検査枠を増やすことが難しく、効率的な運営や検査体制がとれない状態にある。

性器クラミジア・淋菌検査の受診者が梅毒やウイルス性肝炎検査に比べ少ないが、本検査は、尿を検体として用いるため月経の関係により女性の受診者において検査できない場合があった。

夜間検査における受診者は大幅に増加していないが、実施の期間、時間など受診しやすい環境のさらなる充実により受診者枠の拡大が必要だと思われる。

未成年者が陽性を示した場合、説明をどうすべきか、親権者への説明責任が生じると思われるが、支援体制が不明確である。

陽性者が結果通知日に来所しない場合に対する対応手段がない。